

海域の概要

本湾は、奄美大島北西岸の西端付近にある湾で、三方を山に囲まれた湾岸は険しい崖となっています。湾奥には湯湾港があり、真珠やクルマエビの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：2 5 3 km

面積：2 5.7 6 km²

湾内最大水深：8 4 m

湾口最大水深：8 4 m

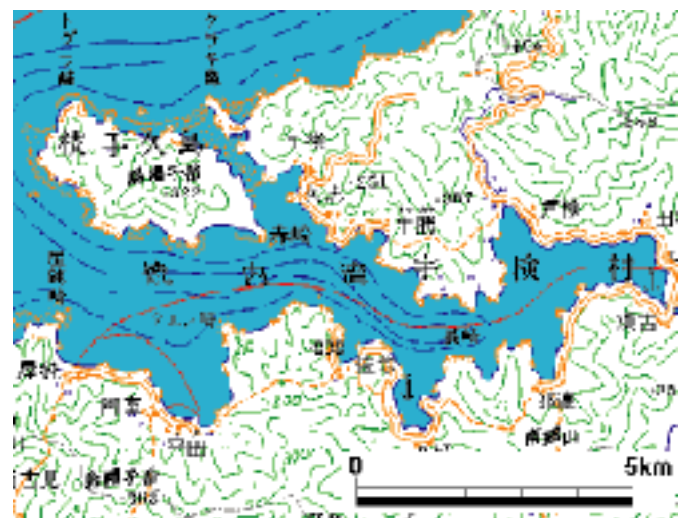
閉鎖度指標：2 0 1

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

鹿児島県大島郡宇検村クラキ鼻から 234 度に引いた線、同村屋鈍埼から 38 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。

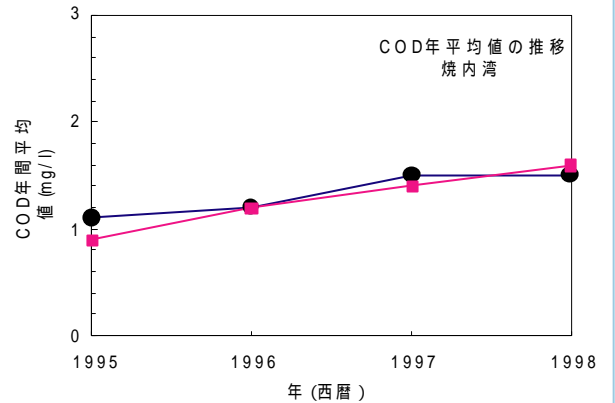


環境

奄美大島の西端に位置し、湾口を東シナ海に開いている奥行きのある湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

湾奥には河内川が流入しています。

湾内の水質は比較的良好で、COD年平均値は1~1.5mg/lの範囲にありますが、魚類養殖の影響などにより年々高い値を示す傾向にあります。



自然

最深部は84mにも達する深い湾で、湾内の岬の部分には小規模ながら見応えのあるサンゴ礁が付いています。湾口には枝手久島があり、湾内にはマッセエ(前瀬)という幅500m程のサンゴ礁があり、干潮時には潮干狩りができます。その深い入り江や枝手久島が冬の厳しい季節風や夏の台風をさえぎり、湾内は風の多い日が続きます。

湾背後の湯湾岳は、標高694mで奄美大島の最高峰です。

その一帯は亜熱帯広葉樹林の原生林で、イタジイ、アマミカタバミ、アマミコスナビ、アマミスミレ、コケンサンショウソウ、ヒイラギ、アマミセイシカなどの植物の珍種があります。動物もアマミクロウサギ、ルリカケス、トゲネズミ、ケナガネズミなどが国指定の天然記念物に指定されています。

また、頂上付近一帯は、国定公園特別保護区に指定されています。



マッセエの干出

文化歴史

古くは日本と琉球王朝が支配する時期もありましたが、島津藩政になり宇検間切という行政範囲がひかれました。大正には焼内村から宇検村に改称され、戦後になって琉球政府から鹿児島県に編入されました。

マッセエにはクシマといわれる松の生えた小さな岩場があり、神話時代の「浮き島伝説」があります。

湾奥の湯湾では、「やけうちどんと祭り」の水中花火大会が行われます。

産業

主な産業は、波おだやかな湾内を活かした、タイ、フグ、アジ、クルマエビ、真珠などの養殖業となっています。また、つりや海水浴なども楽しみ、観光産業にも力を入れています。

また芦検集落には、伝統漁法の待ち網漁が残っています。これは魚が回遊してくる位置に網を仕掛けて、魚(ムロアジ類等)が入ると入り口を閉める漁法です。昔は各集落で行われていた漁法ですが、現在では芦検集落のみで行われています。



真珠養殖